

我孫子市鳥の博物館調査研究報告第10巻：

四街道市鹿渡及小名木調整池周辺の鳥類

原田 茂（千葉県中央博物館友の会）

キーワード：鳥類相，四街道市，二十世紀末

はじめに

四街道市鹿渡地区の鳥類の観察記録をとり始めて十数年、いつの間にか世紀も改まってしまった。この辺で二十世紀末で区切りをつけて観察記録を纏め、その間の観察種の推移などを考察してみることにした。過去の同地区の観察報告を我孫子市鳥の博物館に二度程提出している（後出の引用文献参照）ので、今回は調査地および調査方法については省略し、年度別の観察記録も重複しない様1997～2000年の表Ⅰ～Ⅳ，Ⅵ～Ⅸのみを添付した。また年度毎推移表として鹿渡地区1988～2000年の表Ⅴ，小名木調整池1991～2000年の表Ⅹ二表を新たに添付した。

結 果

1)鹿渡地区：表Ⅴの13年間の記録と1987年以前の断片的記録および状況記憶をも辿りながら観察種の変化推移を説明して行く。カワウとアオサギは滅多に見られない種であったが小名木に調整池が出来てから当地区でもよく観察されるようになった。ダイサギとコサギは年によっては少なくなる事もあるが長い目でみるとそれ程の数の変化は無いように見える。彼らの時は里山の雑木林から現在は調整池に移っている。アマサギとチュウサギは夏鳥であるが一時期殆ど観測出来ない年が続いたが最近復活しつつある。ゴイサギは夜行性のため夜間自宅で上空に飛ぶ声から記録する事が多かった。カルガモとコガモは毎年観察され数の変化は殆ど無い。ワシタカ類ではサシバとチョウゲンボウが個体数を減らしながらも略毎年観察されている。サシバの幼鳥も毎年見られ繁殖が確認出来ている。トビ、

オオタカ、ノスリ、ハヤブサは稀に冬季を中心に観察されているが多くはなく、数の変化は判断は出来ない。コジュケイは現在野鳥リストから外されているが、その個体数が激減している代表種として本調査表には残した。キジも個体数減少の時期もあったが持ち直している。ヒクイナは80年代までで90年代には全く声も聞かれなくなった。シギチ類については春のコチドリ冬のタシギは毎年観察した。旅鳥は春秋に時々キアシシギ、アオアシシギ、クサシギ、チュウシャクシギを観察しているがいずれも個体数が少なく数の変化は不明。カモメ類は稀にユリカモメやセグロカモメが上空通過する。キジバトは特に変化なく観察された。ツツドリは秋の渡り時に観察されていたが90年代後半には見られなくなった。ホトトギスは90年代前半全く声が聞けない年があった。丁度ウグイスの個体数が少なくなった年に相当する。最近はまだ両者とも復活したようだ。アオバズクは90年代前半までは自宅でも声を聞けたが今では鹿渡の森を探し回らなければ聞けなくなった。フクロウも80年代には団地内にも現れる事があったが今では夜明けの森で辛抱しないと声すらも聞けなくなっている。アマツバメは時々観察される種で変化は不明。カワセミは毎年変わりなく見られる。アリスイは極稀である。コゲラは90年代より団地の中でも見られるようになったが全域的には個体数の増加までは感ぜられない。ヒバリは一時期少なくなったが復活したようだ。ツバメは個体数が漸減している。イワツバメは極稀に台風通過直後等に観察される。キセキレイ、セグロセキレイ、ハクセキレイは毎年観察出来るがキセキレイは冬季

を中心に現れる。よく他のセキレイ2種に追われている。ビンズイは松林内でよく見かけていたが最近では特定の場所に行かないと見られない。タヒバリも近年個体数が減少している。ヒヨドリは通年よく見られていたが最近越冬する個体数が少なくなったようだ。モズは略変化なく観察されている。ミソサザイは1991年以降全く見なくなった。ルリビタキ、ジョウビタキは少数だが特に変化も無く観察されている。ノビタキは極稀に秋の渡り時に観察された。トラツグミは最近減多に見られなくなった。独特の鳴き声は90年代に入って全然聞いていない。アカハラ、シロハラは確実に個体数が減少してきている。特にツグミは激減している、しかも秋の渡来時期が遅くなった傾向が見られる。例年ツグミが渡来して来た頃にはヒヨドリやムクドリと渡来したばかりのアカハラ、シメ等と奪い合いをするムクノキの実が最近歳が明けても樹上に沢山残っている。マミチャジナイは秋の渡りの時期に通過する種であるが観察される機会が少なくなった。メボソムシクイは稀に秋の渡り時、センダイムシクイは時々春に囀りを、クイタダキは時々冬季に観察されるが個体数の推移までは判断出来ない。セッカは少ないながら毎年観察される。キビタキは時々、オオルリは稀に春その美しい歌声を聞かせてくれる。秋にその姿を観察出来るのは極稀である。エゾビタキ、サメビタキ、コサメビタキはともに秋の渡り時のみ稀に観察された。サンコウチョウは時々春に姿を見たり声を聞いたりしたが移動途中らしく二日と続いて観察することは無かった。野鳥観察を始めたばかりの頃には近辺を歩くと必ず幾つかのエナガの群れに遭遇したものだ。最近群れが自宅の庭を訪れることも無くなった。エナガは激減している。一方シジュウガラやメジロは数の減少を感じない。ヤマガラは90年代前半までは稀に見かける程度だったが最近をよく見かけ、時には群れに会う事もあり個体数が増加している。ホオジロは個体数が激減している。千葉県鳥の名のとおり近辺の林緑に行けば必ず見られる種であったが最近特定の場所でも時々しか見つけられなくなった。カシラダカも個体数を減らしている。80年代真

冬の休耕田で枯れ草の下にじっと隠れているカシラダカの群れを双眼鏡にとらえて飽かず観察したものだが。最近では春先に僅かに囀る声を聞くのみである。ホオアカは極稀である。アオジも以前は団地内の生け垣によく見かけたり、里山の林床を覗くと群れの採餌中だったりしたものだが、かなり個体数を減らしその棲息場所を狭めている。クロジは90年代後半から観察することは無くなった。カワラヒワは冬季の個体数が極減している。アトリは年によって飛来するが近年確認出来なくなった。マヒワはまだ年によっては飛来して来ることがある。ベニマシコ、ウソ、イカルは稀乃至極稀に観察される。シメは個体数減少とともに飛来時期が遅れて来ている。スズメやムクドリそしてカラス類は感じとして個体数がやや増加している様に思えるが確証はない。カケスやオナガは特に変化はない。ハシビロガモは偶々小名木調整池より飛来したもの。以上90種について個体数の変化推移を出して見た。

2)小名木調整池：表Xにより10年間の推移を説明する。この調査は当初池に来るコチドリの越冬状況観察が目的だった。通年観察を始めたのは1992年10月からである。最初の頃は池の底面積の四分の一程にプール状に水が溜まりその他は干潟状態になる事が多く、カルガモ、コガモ、ハシビロガモが羽を休めゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ等が採餌や埒として利用しだした。さらに春秋の渡りの時期にはクサシギ、キアシシギ、イソシギ、タシギ、稀にはトウネン等も訪れるようになった。水辺の鳥としてカワセミも定住し三種のセキレイ類も常連となり、四街道地区では水辺の鳥を纏めて観察出来る得難い場所が出来上がったのである。ところが1995年になってから調整池としての運転条件が変化しだしたのである。それまでは池の大部分が干潟状を呈していて、そこがシギチを始めカモ類までの恰好の採餌場所になっていた。しかし流れ込む水量の変化によって池は満水状態になったり又もとの干潟状態に戻ったりを繰り返すようになり、そのうち満水が常態に落ち着くとシギチ類は離れていき代わりにカワウ、カイツブリ、バンや潜水性の

キンクロハジロやホシバジロが常連の仲間入りをし、1996,97年に限られたがコアジサシが飛来し盛んに採餌もした。またやがてアシヤマコモが繁茂しだし、カルガモの外にカイツブリやバンも水面に観察されるようになった。オオヨシキリもやって来て繁殖を始めている。残念ながらその後、池では時々干水になることが続き潜水性カモ類は遠ざかってしまった。その他変化の目立つものとして、カモを狙うハヤブサやチョウゲンボウの飛来が少なくなり、冬季のカワラヒワやタヒバリ、春先のツグミ、初夏のツバメが確実に減少している。そのほかは極稀に水面に降り立ったり上空を通過したり或いは岸辺の狭い草地に入り込んだ種などである。

以上この10年間に観察した55種の変遷を述べた。調整池そのものの変遷に主眼を置いて狭い区域内の鳥相の変化を説明して来たが、原因は必ずしもこれだけではない。その考察については後述する。

考 察

1)鹿渡地区で観察された鳥類を個体数の変化を基に分類を試みる。ただし稀にしか観察されず個体数の変化の判断が出来ないもの或いは通常観察されても殆ど変化の認められない種については除外した。

A：個体数の減少した種を更に細分して

A₁：個体数が明らかに減少しているもの

A₂：留鳥の中で冬季のみ従来より減少しているもの

A₃：一時期減少したがその後復活したもの

A₄：冬鳥の中で飛来時期が以前より遅くなっているもの

B：個体数の増加した種

以上の分類を更に狭義の夏鳥冬鳥留鳥の項目に区分し、各項目に種名をリストアップすると。

A₁：夏鳥：サシバ、ヒクイナ、ツツドリ、アオバズク、ツバメ、計5種。

冬鳥：ビンズイ、タヒバリ、ミソサザイ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、カシラダカ、アオジ、クロジ、シメ、計10種。

留鳥：チョウゲンボウ、コジュケイ、フクロウ、トラツグミ、エナガ、ホオジロ、計6種。 A₁計21種。

A₂：留鳥：ヒヨドリ、カワラヒワ、計2種。 A₂計2種。

A₃：夏鳥：アマサギ、チュウザギ、ホトトギス、計3種。

留鳥：キジ、ヒバリ、ウグイス、計3種。 A₃計6種。

A₄：(アカハラ)、(ツグミ)、(シメ)、計(3)種()内は他項と重複するもの。

A合計=A₁+A₂+A₃+A₄=29+(3)種

B：留鳥：カワウ、アオサギ、ヤマガラ、計3種。

総合計 A+B=32+(3)種

A₁夏鳥が減少している原因は越冬地の自然環境悪化だと極め付けられた時期があった。しかし現実には繁殖地での営巣条件悪化も重大な責任があると考えられる。なおツツドリのように当地では通過鳥なので広域に調査しないと移動経路変更と言うこともある。

A₁冬鳥の減少原因として先ず考えられるのは越冬地の自然環境悪化である。里山林の荒廃、不法なゴミの投棄、自然の餌減少など。更に考えられる要素が地球的規模の気候の温暖化である。気候が温暖化したことによって冬鳥が過去程南下の必要が無くなった、或いは南下の時期が遅くなった(A₄)と言う考察ができる。また留鳥のヒヨドリやカワラヒワの大部分が冬場により暖かい南寄りの地域に移動した後に北方から代わりに南下する同種の個体数が少なくなれば冬季この種は数が減少した事になる。(A₂)

A₁留鳥の減少原因も自然環境悪化が主体であるがコジュケイの野良犬猫、エナガのハシブトガラスの食害も当地区では大きな要素ではなかろうか。

A₃のグループについては狭い地域での現象だけでは判断は難しい。一喜一憂する事なく長期に見守る必要がある。

Bグループの増加について、カワウとアオサギは小名木調整池の出現が原因で、ヤマガラは気候温暖化により北総域に棲息範囲を広げたと考える。

以上当地区鳥類の個体数増減原因を調査結

果より考察して見たが、調査範囲の狭いこと調査期間の短いことなどから結論を出すのは困難であり難しかった。

2)小名木調整池での観察鳥類の変遷については池そのものの変遷が大きく影響している事は既に述べた。その他にも周囲環境の変化悪化がいろんな影響を与えて来ている。例えば池の周りの道路では車の通行量が増え静かな池を喧噪な環境に変えてしまったのみならず、柵の外周りに僅かな幅で造られている緑地帯を見事に生活ゴミの投棄場所に変えてしまった。夜間池に向かって空き缶を放る不埒な輩も出て来た。その道路に面した建物ではやっと定着したツバメの営巣をある年から全く拒絶してしまった。水質も目に見えて悪化して来ている。これらが鳥類に具体的にどのような悪影響を与えているかは的確に説明出来ないが、この池が抱える団地はまだ人が増え車が増えていく事を考えると誠に寂しい限りである。

まとめ

四街道市の鳥類については過去断片的に報告しているが、今回のようにやや期間を長くとってみると今までの増減の小さな変化と今回の大きな変化の波とは必ずしも一致しないことが多々あると感じた。更に期間を長くとり且つ地理的範囲ももっと広げて調査すればよりの確な自然環境の影響を把握出来るのではなかろうか。狭い範囲で短期間に観察するぐらいではとても満足出来るような判断は難しい事を痛感した。いずれにせよ四街道に住む我々がこの緑多き自然を破壊してきた、そしてその結果そこにやって来る野鳥類に取り返しのつかないような影響を与えてしまったのが二十世紀であった事は疑う余地の無い所である。二十一世紀になってもこの現象・傾向はこのまま続くのか、或いはいつの日か歯止めがかかるのか是非この目で確認して見たい所だ。しかし、筆者としてはもうこの辺が限界・潮時かなという考えもチラチラして来ている。

謝辞

本稿を校閲していただいた我孫子市鳥の博物館の時田賢一氏および色々のご指導いただいた千葉県立中央博物館の桑原和之氏の両氏に感謝の意を表します。

引用文献

- 桑原和之・木幡冬樹・和仁道大・原田 茂ほか. 1999. 千葉市内陸部と四街道市の鳥類目録. 千葉県生物学会編. 千葉県動物誌 941-969
- 原田 茂・桑原和之・鈴木 明・小倉正一. 1995. 千葉県四街道市鳥類目録. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告4:5-42.
- 原田 茂. 1998. 四街道市鹿渡・小名木調整池周辺の鳥類. 我孫子市鳥の博物館調査報告6:27-36.

表1 四街道市鹿渡地区 野鳥観察記録

(1997年1月～12月 月毎の出現を示す。)

No.	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
1	カワウ	○			○					○				
2	ゴイサギ	○				○	○	○	○	○	○	○	○	
3	アマサギ						○	○	○					
4	ダイサギ				○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	チュウサギ					○	○	○	○	○	○	○	○	
6	コサギ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	アオサギ	○							○		○	○		
8	カルガモ	○			○	○	○	○						
9	コガモ	○		○	○						○	○		
10	サシバ					○	○		○	○				8/26幼鳥2羽確認
11	ハヤブサ											○	○	11/24, 12/10 送電鉄塔周辺
12	チョウゲンボウ											○		
13	コジュケイ					○	○	○	○	○	○	○	○	
14	キジ	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
15	コチドリ			○	○	○								
16	イソシギ									○		○		
17	チュウシャクシギ					○								
18	タシギ	○		○	○							○	○	
19	クサシギ							○			○	○	○	小名木川
20	キジバト	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
21	ホトトギス						○	○	○					
22	カワセミ	○		○			○	○	○	○	○	○	○	
23	コゲラ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24	ヒバリ			○	○	○	○	○	○	○				
25	ツバメ			○	○	○	○	○	○	○				
26	キセキレイ									○	○	○	○	
27	ハクセキレイ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
28	セグロセキレイ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
29	ビンズイ	○			○									終認4/9
30	タヒバリ	○										○	○	初認11/7
31	ヒヨドリ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
32	モズ	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
33	ルリビタキ	○												初認12/2
34	ジョウビタキ	○									○	○	○	" 10/21
35	アカハラ	○				○								終認5/12, 初認12/25
36	シロハラ	○		○	○									" 4/25, " 12/2
37	ツグミ	○		○	○	○					○	○	○	終認5/12, 初認10/31
38	ウグイス	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	
39	オオヨシキリ						○	○	○					
40	ククイタダキ												○	12/25
41	セッカ				○	○	○	○	○	○				
42	エナガ	○		○	○		○			○	○	○	○	
43	ヤマガラ	○			○						○	○	○	
44	シジュウカラ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
45	メジロ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
46	ホオジロ	○			○		○	○	○	○	○	○	○	個体数減
47	カシラダカ	○			○							○	○	個体数減
48	アオジ	○		○	○						○	○	○	初認10/26 例年より遅い
49	カワラヒワ	○		○	○	○	○	○			○	○	○	
50	ウソ	○		○										
51	シメ	○		○	○								○	終認4/30, 初認11/3
52	スズメ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
53	ムクドリ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
54	カケス	○		○	○						○	○	○	
55	オナガ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
56	ハシボソガラス	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
57	ハシブトガラス	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	合計	40	—	29	36	29	32	31	32	39	34	32	36	57種
	調査回数	3	0	(4)	4	3	4	3	3	3	4	4	3	34+(4)回 ()内は不完全巡回

註：今冬は冬鳥の飛来が例年より遅く、かつかなり個体数が少なかった様に思われた。

表2 四街道市鹿渡地区 野鳥観察記録

(1998年1月~12月 月毎の出現を示す。)

No.	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
1	カワウ	○	○	○			○			○	○		○	上空通過 小名木池へ
2	ゴイサギ					○		○	○	○	○			
3	アマサギ					○	○	○	○	○	○			
4	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	チュウサギ				○	○	○	○	○	○	○			初認4/28
6	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	アオサギ							○	○	○	○	○	○	
8	カルガモ				○	○	○	○	○	○	○			
9	コガモ	○	○	○	○							○	○	初認11/13
10	オオタカ	○	○											
11	サシバ				○	○	○	○	○	○	○			8/15 幼鳥3羽観察
12	ハヤブサ												○	12/23 小名木池方面より上空通過
13	チョウゲンボウ		○									○	○	
14	コジュケイ		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
15	キジ	○	○	○	○	○	○	○	○					初認4/28
16	コチドリ				○	○	○	○						
17	イソシギ							○		○				
18	チュウシヤクシギ				○									
19	タシギ	○	○	○								○	○	
20	クサシギ	○									○			小名木川に
21	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22	ホトトギス							○						
23	アオバズク					○								
24	フクロウ					○								
25	アマツバメ										○			10/31 約30羽上空通過 南西へ
26	カワセミ	○	○				○	○	○	○	○	○	○	
27	コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
28	ヒバリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
29	ツバメ				○	○	○	○	○	○	○			初認4/3, 終認9/1
30	セキレイ	○		○						○	○	○	○	
31	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
32	セグロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
33	ビンズイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	終認4/17, 初認11/8
34	タヒバリ	○	○	○	○						○	○	○	" 4/11, " 10/20
35	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
36	モズ	○	○	○	○	○				○	○	○	○	
37	ルリビタキ	○	○	○	○							○	○	終認4/3, 初認11/21
38	ジョウビタキ	○	○	○	○						○	○	○	" 不明, " 11/21
39	アカハラ	○	○	○	○							○	○	終認5/1, 初認11/21
40	シロハラ	○	○	○	○							○	○	" 4/3, " 11/13
41	マミチャジナイ										○	○		10/31. 1羽, 10/31. 4羽
42	ツギミ	○	○	○	○						○	○	○	終認5/1, 初認10/31
43	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
44	オオヨシキリ				○	○	○	○	○					初認4/28
45	センダイムシクイ				○									4/11囀り
46	キクイタダキ	○												1/13, 12/1 各2羽
47	セッカ				○	○	○	○	○	○				
48	キビタキ											○	○	10/3 郷土の森 ♂1
49	エナガ	○	○	○	○	○			○		○	○	○	
50	ヤマガラ	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	出会う頻度がエナガより多くなる
51	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
52	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
53	ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減
54	ホオアカ			○										3/17 小名木川岸2羽
55	カシラダカ	○	○	○										
56	アオジ	○	○	○	○							○	○	終認4/11, 初認11/3
57	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
58	ベニマシコ			○										3/26 ♂1羽
59	イカル											○	○	11/23囀り
60	シメ	○		○	○						○	○	○	終認4/21, 初認10/31
61	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
62	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
63	カケス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
64	オナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
65	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
66	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	合計	39	37	35	40	36	30	32	31	30	37	39	41	66種
	調査回数	3	3	3	4	3	3	3	4	3	4	3	4	40回

表3 四街道市鹿渡地区 野鳥観察記録

(1999年1月~12月 月毎の出現を示す。)

No.	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
1	カワウ	○		○	○	○	○			○	○			
2	ゴイサギ	○		○			○							
3	アマサギ				○	○		○	○					初認4/26, 終認8/29
4	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	チュウサギ				○	○	○	○	○	○	○	○	○	初認4/28, 終認10/31
6	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	アオサギ					○	○	○	○	○	○		○	
8	カルガモ				○	○	○	○	○	○	○			
9	コガモ	○	○								○			
10	オオタカ		○		○									初認10/21, 河川工場の為個体数減
11	サシバ				○	○	○	○	○					8/29 幼鳥1羽
12	ハヤブサ										○	○		
13	チョウゲンボウ	○		○										個体数減
14	コジュケイ	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	
15	キジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
16	コチドリ			○	○	○	○							初認3/30 2羽
17	キアシシギ					○						○		5/11 1羽, 11/25 1F1.
18	チュウシャクシギ					○								5/15. 声
19	タシギ	○	○	○								○	○	
20	クサシギ	○										○	○	
21	セグロカモメ								○					8/12 受空1F1.
22	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
23	ホトトギス					○	○	○						5/30初認, 今年は声頻繁
24	アオバズク								○					8/5 声 近年減少
25	フクロウ				○	○	○							
26	アマツバメ					○	○							5/28 上空2F1. (前日強風)
27	カワセミ	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	
28	コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
29	ヒバリ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
30	ツバメ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	初認3/30, 終認9/1
31	キセキレイ									○	○	○	○	
32	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
33	セグロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
34	ビンズイ										○	○	○	初認11/3
35	タヒバリ	○	○	○	○						○	○	○	終認4/11, 初認10/31
36	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
37	モズ	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	
38	ルリビタキ	○	○	○							○	○	○	終認4/3, 初認11/28
39	ジョウビタキ	○	○								○	○	○	" 2/21, " 10/28
40	トラツグミ	○												1/18 郷土の森
41	アカハラ	○		○	○									終認5/1, 初認11/5 個体数減少
42	シロハラ	○	○	○							○	○	○	" 3/30, " 11/17
43	マミチャジナイ										○	○	○	
44	ツギミ	○	○	○	○	○					○	○	○	終認5/4, 初認10/31
45	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
46	オオヨシキリ				○	○	○	○	○					初認4/26, 終認8/12
47	セッカ	○		○	○	○	○	○	○					
48	キビタキ					○								5/1 松源寺の森 S.
49	オオルリ				○									4/22 郷土の森♂1
50	コサメビタキ											○		10/21 郷土の森1, メジロと混群
51	エチガ	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
52	ヤマガラ	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	
53	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
54	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
55	ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○				近年個体数減
56	ホオアカ										○			10/31 小名木川岸2羽
57	カシラダカ	○	○	○	○									終認4/12, 初認12/22個体数減少
58	アオジ	○	○	○	○						○	○	○	" 4/26, " 10/21
59	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
60	シメ	○	○	○	○	○								終認5/1, 初認10/30
61	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
62	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
63	カケス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
64	オナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
65	ハシボンガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
66	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	合計	42	33	37	42	43	33	32	32	30	40	39	37	66種
	調査回数	3	3	4	5	4	3	4	4	3	5	3	3	44回

表4 四街道市鹿渡地区 野鳥観察記録

(2000年1月～12月 月毎の出現を示す。)

No.	種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
1	カワウ		○											近年小名木川で採餌するものあり 初認4/26, 終認8/21 " 4/28, " 10/3
2	ゴイサギ				○	○	○	○	○	○	○	○		
3	アマサギ				○	○	○	○	○	○	○	○		
4	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
5	チュウサギ				○	○	○	○	○	○	○	○		
6	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
7	アオサギ				○	○	○	○	○	○	○	○		
8	カルガモ				○	○	○	○	○	○	○	○		
9	コガモ	○	○	○	○									
10	トビ	○												
11	オオタカ								○			○		2/12 1FF1 7/14 幼鳥1羽確認 個体数激減 初認3/30 10/27 1羽上空通過声 5/16 1F1声
12	ノスリ		○											
13	サシバ							○	○	○	○			
14	チョウゲンボウ	○						○			○	○		
15	コジュケイ					○	○							
16	キジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
17	コチドリ			○	○	○								
18	アオアシシギ										○			
19	イソシギ							○	○	○	○			
20	チョウシヤクシギ					○								
21	ダシギ		○										○	12/25 1F1 今年も声がよく聞かれた5/22初認 個体数減 (5/15, 20) 初認3/30, 終認10/15, アルビノ1羽
22	ユリカモメ												○	
23	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24	ホトトギス					○	○	○	○	○	○	○	○	
25	アオバズク							○	○	○	○	○	○	
26	カワセミ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
27	コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
28	ヒバリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
29	ツバメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
30	キセキレイ		○										○	
31	ハグセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	初認11/3 個体数減 終認4/11, 初認10/27 冬季 個体数激減 終認3/13, 初認11/23 " 3/30, " 10/27 " 4/25, " 12/12 飛来遅く少 " " " " "
32	セグロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
33	ビンズイ		○										○	
34	タヒバリ	○	○	○	○						○	○	○	
35	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
36	モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
37	ルリビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
38	ジョウビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
39	アカハラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
40	シロアラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
41	ツグミ	○	○	○	○	○							○	終認5/6, 初認11/23 個体数減 " 5/9, " 8/21 4/30 S. 個体数減 終認5/1, 初認10/27 冬季 個体数減少 終認5/6, 今冬飛来未確認
42	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
43	オオヨシキリ					○	○	○	○	○	○	○	○	
44	センダイムシクイ				○								○	
45	セッカ					○	○	○	○	○	○	○	○	
46	エナガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
47	ヤマガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
48	シジュウガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
49	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
50	ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
51	アオジ	○	○	○	○	○					○	○	○	
52	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
53	シメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
54	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
55	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
56	カケス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
57	オナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
58	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
59	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	合計	34	34	35	39	38	30	36	33	30	34	36	36	59種
	調査回数	3	2	3	4	4	3	3	3	3	5	4	4	41回

註：小名木川流域では、10月より翌年3月まで河川改修工事および下水管改良工事が施工され、水辺の鳥がかなり影響をうけた。

表5 四街道市鹿渡地区 野鳥観察記録
(1988年～2000年 年毎の出現を示す。)

No.	種名	88	89	90	91	92	96	94	95	96	97	98	99	00	備考
1	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	調整池が出来てから飛来始める
2	ゴイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一時期全く来ない年あり
3	アマサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一時期全く来ない年あり
4	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一時期全く来ない年あり
5	チュウサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	カワウと同じ傾向
6	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
8	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
9	コガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
10	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	稀
11	オオタカ							○							時々
12	ノスリ														稀
13	サシバ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎年繁殖しているが個体数減
14	ハヤブサ														時々
15	ショウゲンボウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減
16	コジュケイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数激減
17	キジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
18	ヒクナイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	激減 近年全く声なし
19	コチドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
20	アオアシシギ														極稀
21	キアシシギ					○			○						春の渡り時 時々
22	イソシギ		○						○						時々
23	チョウシヤクシギ								○						春の渡り時に、個体数は少ない
24	タシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
25	クサシギ														河川工事後時々
26	ユリカモメ									○					極稀
27	セグロカモメ														極稀
28	キツバドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
29	ツツト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
30	ホトトギス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	秋の渡り時 最近観察無し 年により全く声も聞かれない
31	アオバズク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	近年個体数減
32	フクロウ														近年個体数激減
33	アマツバメ														年々
34	カワセミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
35	アリスイ														極く稀
36	コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
37	ヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
38	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減
39	イワツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	極く稀
40	キセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	冬季 他種によく追われている
41	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
42	セグロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
43	ビンズイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減
44	タヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減
45	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	冬季飛来数が少ない年がある
46	モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
47	ミソサザイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	近年まったく見ない
48	ルリビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
49	ジョウビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
50	ノビタキ														極稀 秋の渡り時
51	トラツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減
52	アカハラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減
53	シロハラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減
54	マミチヤジナイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数は少ないが秋の渡りに
55	ツグミス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減 近年飛来時期が遅れ
56	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一時期個体数減 現在復活
57	オオヨシキリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減
58	メボソムシクイ														稀 秋の渡り
59	センダイムシクイ														春時々声を聞く
60	キクイタダキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	時々
61	セッカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	少ないが毎年
62	キビタキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	春の渡りに時々、秋は稀
63	キオトルリ														稀に春囀りを聞く
64	サメビタキ		○												稀 秋の渡り
65	エソビタキ		○												稀 秋の渡り
66	コサメビタキ														稀 秋の渡り
67	サンコウチョウ	○								○					稀 春の渡り
68	エナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数激減
69	ヤマガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	近年個体数増
70	シジュウガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
71	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
72	ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数激減
73	ホオアカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	稀
74	カシラダカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数激減
75	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減
76	クロジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	近年見られず
77	アトリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	近年渡来せず
78	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減 特に冬季激減
79	マヒワ														年により異なる
80	ベニマシコ														極稀
81	ウソ														稀
82	イカル														稀
83	シメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数減 飛来時期遅れ
84	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
85	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
86	カケス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
87	オナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
88	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数やや増
89	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	個体数やや増
90	ハシブトガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	極稀小名木池より飛来
	合計	52	62	54	53	57	56	65	57	59	57	66	66	59	合計90種
	調査回数	46	63	43	32	28	39	42	45	46	38	40	44	41	合計547回

表6 小名木調整池野鳥観察記録(1996年10月~1997年9月)

種名	1996年			1997年									最大数
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
カイツブリ	4	4	2	2	2	2	1	3	3	4	7	5	7
カワウ	3	13	10	6	2	3	8	6	4	1		2	13
ゴイサギ	5	7	3	1			5	9	7	13	11	6	13
ダイサギ	1	3	1	1		1	1	3	1		1	1	3
チュウサギ	5								1	1	1	2	5
コサギ	14	7	7	4	2	8	2	2		1	4	12	14
アオサギ	2	1	1			1		1	1	1		1	2
カルガモ	44	38	26	25	11	8	10	15	8	23	13	26	44
コガモ	21	120	122	102	17	16	40	6				3	122
ハシビロガモ		3	4	12		6	3						12
ホシハジロ				4									4
キンクロハジロ			1	4		2							4
チョウゲンボウ													
バン	5	2	3	3		4	6	6	5	4	3	4	6
オオバン													
コチドリ								1					1
クサシギ				1			1						1
タシギ		5	3	2									5
コアジサシ									8	2			
キジバト	2	3						2	2	2	2	2	3
カワセミ	2	1		1		1	1	1	1	2	2	2	2
ヒバリ	1	2				1	1	1	2	3			3
ツバメ						1	2	2	4	4	1	2	4
キセキレイ		1											1
ハクセキレイ	6	5	4	3	2	4	1	3	2	2	2	4	6
セグロセキレイ	1	1				1						1	1
タヒバリ													
ヒヨドリ		2	3	3				1	2	2	5	1	5
モズ	1			1									1
ツグミ		4	1	1									4
ウグイス													
オオヨシキリ													
セッカ							1	1	1				1
シジュウカラ													
メジロ													
ホオジロ										1			1
アオジ							1						1
カワラヒワ	1	1		2			1	1	1				2
スズメ	40	40	30	8	15	10	20	20	20	20	20	30	40
ムクドリ	1	3	8	4	5	8	10	6	9	11	180	2	180
ハシボソガラス	4	3		1			1	2	3	2	2	1	4
ハシブトガラス	15		1					4	2	1	1	2	15
キジ								1		1			1
コゲラ		1											1
シメ			1										1
ドバト	6	10	4	8	4	3	4	8	1	10	30	10	30
調査回数	5	5	3	3	1	1	3	4	6	4	4	3	42
合計種数	22	26	20	21	11	17	21	24	22	23	17	20	39

註：1996. 10. 約10日間干潟状態に干上がった。そのため潜水性かもの飛来が激減した。

表7 小名木調整池野鳥観察記録(1997年10月～1998年9月)

種名	1997年			1998年									最大数
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
カイツブリ	7	1	2	2	1	4	2	4	2	6	6	4	7
カワウ	4	5	8	5	3	6	8	7	4	2		7	8
ゴイサギ	15	4	5	3	2	1	3	2	5	5	2	8	15
ダイサギ	3	2	1	1	1	1	1	1		1	1	4	4
チュウサギ	2	5						5			1	6	6
コサギ	24	16	6	2	4	4	4	1		1	3	15	24
アオサギ	2	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	2
カルガモ	63	26	32	24	22	24	18	10	5	40	26	3	63
コガモ	12	38	28	95	82	60	32	6				16	95
ハシビロガモ			2	2	2	4							4
ホシハジロ				1		1	1						2
ハヤブサ													
チョウゲンボウ													
バン	3	3	3	3	2	3	5	2	2	1	2	1	5
オオバン													
コチドリ								1					1
イソシギ													
タシギ				1		1							1
コアジサシ													
キジバト	4	1	4	3			1	1	1	2	3	4	4
カワセミ	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2
ヒバリ	1					1		1	1	1	1		1
ツバメ								5	4	4	4	2	5
キセキレイ			1										1
ハクセキレイ	5	50	5	4	4	2	2	1	2	3	1	1	50
セグロセキレイ	2	3	1						1			1	3
タヒバリ													
ヒヨドリ			4	1	1		15	4	2	1		2	15
モズ	1												1
ツグミ				2	2	2	2						2
ウグイス													
オオヨシキリ											8	9	9
セッカ			1				1	1	1	1	1		1
シジュウカラ													
メジロ													
ホオジロ													
アオジ													
カワラヒワ		12	3	8	3	1	3						12
スズメ	25	60	50	40	30	40	30	30	30	30	20	30	60
ムクドリ	4	70	7	30	4	8	5	6	5	6	26	90	90
ハシボソガラス	1	3	2	4	3	3	2	1	2	2	3	2	4
ハシブトガラス	3		16	1		1		2	1		1	3	16
マガモ	1												1
キンクロハジロ						1							1
キジ							1	1	1				
コゲラ							2	1					
ドバト	8	3	8	13	7	4	5	2	2	16	27	10	27
調査回数	6	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	41
合計種数	22	19	23	23	19	23	23	24	20	19	19	22	36

註：1997.10.池は数回干上がった。そのため潜水性のかもが寄り付かなかった。

表8 小名木調整池野鳥観察記録(1998年10月~1999年9月)

種名	1998年			1999年									最大数
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
カイツブリ	1	5	3	3	2	2	3	2	1	3	6	6	6
カウウ	10	8	9	6	3	5	5	8	2	1	5	5	10
ゴイサギ	6	7	10	5	5	9	7	2	1	3	2	8	10
ダイサギ	2		1	1	1	2	1	1	1		1	10	10
チュウサギ	1										2	5	5
コサギ	14	5	4	4	11	11	5	1		2	9	33	33
アオサギ	2	2	1	1	1	1		2	1	1	1	1	2
カルガモ	54	58	44	4	11	10	18	19	13	62	50	55	62
コガモ	60	95	88	122	138	94	32					17	138
ハシビロガモ			3	5	6	4							6
ヒドリガモ		1		1	1								1
ハヤブサ			1										1
チョウゲンボウ													
バン	2	2	2	2	2	2	6	3	4	5	4	4	6
オオバン													
コチドリ								2	1		1		2
キサシギ													
タシギ						1							1
コアジサシ													
キジバト	2	3	2	1	1	1	2	1	2	2	3	3	3
カワセミ	1	1	1	1	1	2		1	1	1	2	2	2
ヒバリ	1	1				1	1	1	1	1			1
ツバメ						1	3	4	6	4	2		6
キセキレイ													
ハクセキレイ	11	4	3	2	2	2	2	1	3	2	2	3	11
セグロセキレイ	1	3	1	2	1	2					3	2	3
タヒバリ													
ヒヨドリ	5	4	3	2		2			1	1	2		5
モズ	1	1											1
ツグミ		3	1	2	2	1	1						3
ウグイス													
オオヨシキリ								1	1	2	1		2
セッカ					1			1	1	1		1	1
シジュウカラ				2					1				2
メジロ								1					1
ホオジロ													
アオジ													
カワラヒワ		3		6	2	2	1		1				6
スズメ	30	50	30	40	40	30	30	30	50	30	30	50	50
ムクドリ	2		18	12	6	12	12	10	6	6		17	18
ハシボソガラス	1	4		1	2	2	2	2	5	2	1	3	5
ハシブトガラス	1	3	2	3		2	3	1	5	2	3	2	5
コゲラ	1	2				1							1
ドバト	1	4	2	8	5	4	8	2	10	1	7	7	10
調査回数	3	3	3	3	3	3	3	5	3	3	4	4	40
合計種数	23	23	21	24	22	25	19	22	23	20	21	20	36

表9 小名木調整池野鳥観察記録(1999年10月～2000年9月)

種名	1999年			2000年									最大数
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
カイツブリ	6	3	3	2	4	3	3	1	2	7	6	2	7
カワウ	7	6	7	5	4	5	5	7	3	6	6	5	7
ゴイサギ	6	7	3	9	10	10	10	2	2	6	12	3	12
ダイサギ	4	1	1	1	1	1	1			1	1	2	4
チュウサギ	6	2									1	3	6
コサギ	26	19	8	8	10	12	2	1	1	3	9	12	26
アオサギ	1		1	1	1	1	1		1	1	1	1	1
カルガモ	60	12	14	24	30	31	14	21	18	37	46	91	90
コガモ	110	122	114	118	67	94	78	14				34	122
ハシビロガモ			2	6	6	6	1						6
ヒドリガモ				2	2	2	2						2
ハヤブサ													
チョウゲンボウ													
バン	4	3	3	3	3	3	4	3	4	6	5	3	6
オオバン													
コチドリ							2					2	
キサシギ										1	1	1	
タシギ		1										1	
コアジサシ													
キジバト	2	1		1			1	1	1	2	1	3	3
カワセミ	1	2	1	1	1	1	1	1	1	3	2	1	3
ヒバリ						1	1	1	1	1			1
ツバメ							2	4	6	17	4		17
キセキレイ													
ハクセキレイ	4	3	2	3	1	2	2	1		2	2	2	4
セグロセキレイ	1					1				1	1		1
タヒバリ				1									1
ヒヨドリ	2	1	1	2	3		1	2	2	1	1		3
モズ	1	1											1
ツグミ			1			1							1
ウグイス													
オオヨシキリ									2	4			4
セッカ								1	1	1			1
シジュウカラ									2				2
メジロ													
ホオジロ											1		1
アオジ				2		1							2
カワラヒワ		1		4			2	2			2		4
スズメ	50	40	30	50	30	30	40	50	30	40	40	50	50
ムクドリ	36	70	12	6	8	7	6	10	2	30	500	11	500
ハシボソガラス	3	3	2	3	2	1	1	2	1	1	2		3
ハシブトガラス	6	1		1	2	1	1	2	3	2	2	1	6
タマシギ										1			1
ドバト	10	12		3			1	1	3	3	5	3	12
調査回数	3	3	2	3	2	2	2	3	3	3	3	3	32
合計種数	21	21	17	23	18	21	24	20	20	23	23	18	37

表10 小名木調整池野鳥観察記録

No.	種名	(1991~2000年 年別推移)									備考	
		91.2	93	94	95	96	97	98	99	00		
1	カイツブリ			1	1	11	7	7	6	7	96年以降毎年繁殖している 南西方向より日参している 日中池で埽をとる 極稀 サギ類は夜間池で埽をとる ものが多い、98,99,00年の 数字は日没直後にカウント した。	
2	カワウ				14	11	13	8	10	7		
3	ゴイサギ	1	6	18	19	12	13	15	10	12		
4	ササゴイ					1						
5	ダイサギ	1	1	2	2	2	3	4	10	4		
6	チュウサギ		1	10	4	5	5	6	5	6		
7	コサギ	5	9	13	8	7	14	24	33	26		
8	アオサギ	1	3	3	4	2	2	2	2	1		
9	マガモ					2						
10	カルガモ	6	18	31	38	42	44	63	62	90		93年11月マガモとカルガモ
11	コガモ	74	96	118	85	98	122	95	138	122	交雑種1羽、コガモの白化 体1羽約一ヵ月滞在。	
12	ハシビロガモ	14	14	8	8	10	12	4	6	6		
13	ヒドリガモ								1	2		
14	ホシハジロ					5	4	2				
15	キンクロハジロ		1	1	1	14	4	1	1			
16	ハヤブザ			1					1			
17	チョウゲンボウ	1	1	1		1	1					
18	キジ			1			1	1				
19	バン			2	18	13	6	5	6	3		95年以降池で繁殖している
20	オオバン											
21	コチドリ	9	8	18	20	2	1	1	2	2	93年まで越冬が見られた	
22	トウネン		10									
23	クサシギ	2	5	7	10	2	1					
24	キアシシギ		1	4	4							
25	イソシギ	1	1	1	1					1		
26	タンギ	1	3	3	2	1	5	1	1	1		
27	セグロカモメ		13									
28	コアジサシ					2	8				96,97年池で小魚を採餌	
29	キジバト	+	3	3	3	2	3	4	3	3		
30	カワセミ	2	3	2	3	2	2	2	2	3		
31	ヒバリ			3	3	5	3	1	1	1		
32	ツバメ	15	16	15	12	20	4	5	6	17		
33	イワツバメ				12						台風通過直後観測 秋池でセキレイ類が埽 入り前の集合をよくす る。	
34	キセキレイ	+	2		2	1	1	1				
35	ハクセキレイ	+	20	30	18	10	6	50	11	4		
36	セグロセキレイ	+	2	10	4	4	1	3	3	1		
37	タヒバリ	+	3	5	3	1				1		
38	ヒヨドリ				2	11	5	15	5	3		
39	モズ	1				1	1	1	1	1		
40	ジョウビタキ	1	1	1								
41	ツグミ	+	3	3	3	1	4	2	3	1		
42	ウグイス											
43	オオヨシキリ				2			1	2	4	最近池の芦原で繁殖	
44	セッカ		1		1	1	1	1	1	1		
45	シジュウカラ					6			2	2		
46	メジロ				3	2						
47	ホオジロ	+		1		1	1			1		
48	アオジ	+	3	1			1			2		
49	カワラヒワ	+	8	10	40	20	2	12	6	4	冬季激減	
50	スズメ	+	150	100	60	100	40	60	50	50		
51	ムクドリ	+	3	30	40	40	180	90	18	500		
52	ハシボソガラス	+	2	4	10	8	4	4	5	3	埽入り前の集合	
53	ハシブトガラス	+	1	32	20	3	15	16	5	6		
54	コゲラ					1	1					
55	シメ						1					
56	タマシギ									1		極稀
57	ドバト		2	7	38	20	30	27	10	2	池の周辺で繁殖、最近減	
58	セキセイインコ		1									
	合計種数	29	35	36	37	42	39	36	36	37	合計55種(ドバトを除く)	
	調査回数	37	43	71	65	54	42	41	40	32	合計425回	

Birds of Shikawatashi and Onagi in Yotsukaido City, Chiba prefecture

Shigeru Harada (Friends of the Natural History Museum and Institute, Chiba)

KEY WORDS : Avifauna, Yotsukaido city, Ende of 20th Century

1150-116 Shikawatashi, Yotsukaido, Chiba 284-0003, Japan

訂正：原田 茂 (2002)
 Erratum : Shigeru Harada (2002)

原田 茂 四街道市鹿渡及小名木整地池周辺の鳥類(調査研究報告 10:33-47)Shigeru Harada (Birds of Shikawateshi and Onagi in Yotukuaido City, Chiba prefecture. Bull. Abiko City Mus. Birds. 10:35-47) の文章中に下記のような誤り及び脱落がありましたので訂正致します。

頁	行	誤	正
34	左 下より4行目	林縁	林縁
40	表 No.20	チ <u>ヨ</u> ウシヤクシギ	チ <u>ユ</u> ウシヤクシギ
41	表 No.23	チ <u>ヨ</u> ウシヤクシギ	チ <u>ユ</u> ウシヤクシギ
41	表 No.33備考欄	年々	時々
41	表 種名17行目	<u>キサ</u> シギ	<u>イソ</u> シギ
45	表 種名17行目	<u>キサ</u> シギ	<u>イソ</u> シギ
45	表 16行目コトドリ最大数	脱落	2
45	表 16行目イソギ最大数	脱落	1
45	表 16行目タギ最大数	脱落	1